

国債発行総額 最高へ

来年度180兆円前後 政府調整

政府は2014年度の国債の発行総額を180兆円前後とする方向で調整に入った。当初の発行計画へは12年度の174兆円を越えて過去最高になる。国が過去に負った借金を借り換える借換債が大幅に増えるのが主因。国の借金は1000兆円を越えており、今後の市場での消化を不安視する声も出ている。

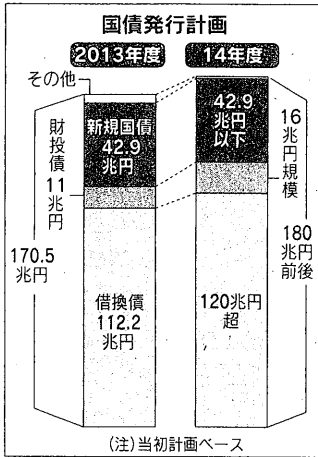
政府は24日にも2014年度の予算案を閣議決定するのに合わせて、国債発行計画を決める。発行総額は13年度に比べると10兆円前後増える。借換債が120兆円超。台前半と10兆円程度増えるのが大きい。08年秋のリーマン・ショック後の5年債や、11年の東日本大震災後の2年債など、過去の経済対策の際に発行してきた国債が相次いで償還期を迎えるためだ。

財政投資融資に使う財投債も16兆円前後と5兆円規模で増える見通し。政府は13年度に発行した年金特別国債(2・6兆円)を14年度は発行しない。新規国債も13年度(42・9兆円)以下に抑える方針だが、借換債の発行増を補えない。

発行総額は増える一方、政府は来年度の市場発行額はほぼ横ばいと見込んでいる。財務省は来年度の増額分の大半を今年度中に発行でき、市場で国債を大量に買い入れる。現在は日銀が市場で国債を大量に買っている。13年度も国債整理基金から7兆円を取り崩し、市場の需給に悪影響が出ないようにする方向だ。

発行総額は増える一方、政府は来年度の市場発行額はほぼ横ばいと見込んでいる。財務省は来年度の増額分の大半を今年度中に発行でき、市場で国債を大量に買い入れる。現在は日銀が市場で国債を大量に買っている。13年度も国債整理基金から7兆円を取り崩し、市場の需給に悪影響が出ないようにする方向だ。

借換債が大幅増



借換債 国債が満期に達した場合に一部を償還せずに借り換えるために発行する国債。借換債は最初に国債を発行してから60年後に全額を償還するルールに基づいて発行される。たとえば、10年債の場合は発行してから10年後にまず6分の1を現金で償還。残りの6分の5については借換債を発行し、10年ごとにこの作業を繰り返す。

昇に転じつつある。物価高に伴い金利に上昇圧力がかけられ国の利払い費がかさむリスクがある。財務省は金利が1%上昇すると、利払いなどに充てる国債費が14年度で1兆円、15年度は2兆4000億円増えると試算する。9月末時点で101兆1兆円に達した「国の借金」(国債と借入金などの合計)が一段と膨らみかねない。